

# ①第 37 回献体実務担当者研修会・②解剖組織技術研究会第 17 回研修会参加報告

医学系部門 基礎社会医学班 清水伸輝，中谷宣弘

## 1. はじめに（目的等）

①は全国の献体処置に携わる職員（教員、技術職員、事務職員）や篤志会会員が参集し、実務を行う上で  
の問題点、改善方法について意見交換を行う会である。②は献体処置を行う技術職員の研究会で、①よりも  
更に技術的な話題を中心に意見交換を行う会である。これらに参加し、献体処置やそれを取り巻く全国の状  
況に関する情報を得る事が目的である。

## 2. 期間・場所

期間：①令和元年 11 月 22 日 ②11 月 23 日

場所：共に 宮城県仙台市 東北医科薬科大学 福室キャンパス 第一教育研究棟

## 3. 参加者等

①献体処置に携わる職員（教員、技術職員、事務員）篤志会会員 135 名

②各大学の解剖学技術職員 47 名

## 4. 研修内容

①「現況リストを通してみる献体の過去現在未来」をテーマに 4 演題

②午前；総会と教育講演

午後；献体業務の紹介、新しい解剖体固定法の紹介など 4 演題、業務に関する諸問題の全体討論

## 5. まとめと感想

①では主に献体登録者の動向、退会・不献体などに関する近年の状況変化や問題、これからの展望  
など多岐に渡って講演された。また、昨年度某大学で献体の取り違えが起り非常に大きな問題となったた  
め、当該校の教授による事前事後の経過と対策について報告があった。同様の事は本学でも起り得る事  
であり、対策案は非常に参考になった。案を持ち帰り提案してみようと思う。②では、午前午後の 2 部構成で  
多くの発表がなされた。その中で特に印象に残ったのは業務全般に関する諸問題の全体討論である。これは  
事前にアンケート調査を行い、そこからいくつかの問題をピックアップし、全体に投げ掛け他校の意見を伺  
う形で行われた。本学からは先の取り違えに対する対策や火葬に関する問題を取り上げてもらい、他校の  
意見を拝聴し非常に有用なアドバイスを持ち帰ることができた。設定時間で収まらないほどの討論が交わさ  
れ、盛況のうちに終了となった。解剖系技術職員の会（解剖組織技術研究会）では会員のメーリングリス  
トがあるので、今回紹介しきれなかった話題については引き続きメールなどで意見交換が可能であり、全体討  
論も今後の会で継続することが示唆された。今回得た知見を参考にし、今後もより質の良い技術支援が出来  
るよう尽力していきたい。また、中谷は当会の幹事を担当しており、会場の準備片付け、受付を担当し会費  
の徴収なども行った。